

WHAT IS CLAIMED IS:

1. 体腔内に挿入される先端部と、この先端部に開口した貫通孔と、を有する細長いシースと；

5 このシースの貫通孔中に長手方向に移動可能に挿入され、中心軸を有する細長い操作部材、この操作部材は、上記シースの先端部の前記開口から突き出して、基端と先端とを有するループを形成する高周波処置用ワイヤを、先端部に有する；とを具備し、

10 上記シースの先端部から上記ワイヤが突き出されたとき、上記ワイヤが形成するループのループ面が上記操作部材の中心軸に略平行であり、かつ上記ループの先端と基端を結ぶループ中心軸が上記操作部材の中心軸に対し傾斜するように、前記ループは中心軸から側方に突出する高周波切開切除具。

2. 上記ループは、上記操作部材の中心軸に垂直な方向の長さをD1、上記シースの中心軸と平行な方向の長さをD2とすると、 $D1 \geq D2$ の関係を維持して傾斜する請求項1に記載の高周波切開切除具。

15 3. 前記操作部材は、前記ループの基端近くに少なくとも1つの変形可能な直線部を有し、前記直線部が、前記シースの先端部から突き出されたときに、直線部は屈曲して、前記前記ループを中心軸から側方に突出させる請求項1に記載の高周波切開切除具。

20 4. 前記シースは、前記先端部と、これに続き、前記中心軸に沿って延びた基端部とを有し、先端部は、前記開口からから突き出た操作部材の部分が、前記中心軸に対して傾斜するように、基端部に対して傾斜している請求項3に記載の高周波切開切除具。

25 5. 前記操作部材は、前記ループの基端近くに、互いに中心軸に沿って離間した複数の変形可能な直線部を有し、これら直線部は前記シースの先端部から突き出されたときに、屈曲して、前記前記ループを中心軸から側方に突出させる請求項1に記載の高周波切開切除具。

6. ループ中心軸が上記操作部材の中心軸に対し傾斜する角度は 90° である請求項1に記載の高周波切開切除具。

7. 体腔内に挿入される細長いシースと；

このシースにこれの長手方向に移動可能に挿入される細長い操作部材、この操作部材は、上記シースから一方向に突き出して、操作部材の移動方向に対して横方向に突出かつ広がってループを形成する高周波処置用ワイヤを有し、このループが含まれるループ面は、操作部材の移動方向に対して平行である；とを具備し、

- 5 前記ワイヤは、自身の弾性変形により、上記ループを形成し、ループがシース内に引き込まれるのに従って径が小さくなる、高周波切開切除具。

8. 前記ワイヤは、前記ループの基端部近くに少なくとも1つの折曲可能な直線部を有し、この直線部は、自身の弾性変形により、シース内に引き込まれたときには、シースと当たって直線となり、シースから出されたときには、折曲する
10 請求項7に記載の高周波切開切除具。

9. 前記直線部は、ほぼ90°に折曲される請求項7に記載の高周波切開切除具。